

フジコー技報第28号によせて

SDGs を通じて、 人々の幸せと社会の発展を支える

ウシオ電機株式会社
代表取締役社長

内藤 宏治
Koji Naito



1. はじめに

今回、貴社技報「フジコー技報」への寄稿の栄を賜り厚く感謝申し上げます。また、本技報が四半世紀もの長きに渡って発行し続けられてきたことは、貴社が創業当初より技術開発を重要視されてきたという証左であるとともに、貴社長年の技術開発への誇りを体現されているものと敬意を表します。

先が見通せず目まぐるしい変化の中にある昨今、企業には業種や業界を超えた連携による新たな価値創造、それら取り組みから生まれるイノベーションによる課題解決が求められており、我々も例外ではありません。今回の貴社技報への寄稿はその第一歩として、貴社と弊社が互いを理解し、連携を深め、共に社会課題の解決に向けたイノベーションを創出するための一助となれば幸甚です。

当社は前回の東京オリンピックが開催された1964年、兵庫県姫路市で創業しました。当時、「あかり」としてのみの利用が一般であった「光」を、あかりとしてだけでなく、「化学エネルギー（紫外線）」、「熱エネルギー（赤外線）」として利用することで、半導体やフラットパネルディスプレイ、電子部品製造などのエレクトロニクス分野や、シネマ用デジタルプロジェクターや照明などのビジュアルイメージング分野で多くの世界トップシェア製品を生み出し、現在ではランプやレーザー、LEDなどの各種光源に加え、それらを組み込んだ光学・映像装置を展開しております。

そして今年、当社は2030年に向け「あかり・エネルギーとしての光の利用を進め、人々の幸せと社会の発展を支える」という新たなミッションのもと、私たちの光技術で、より大きな社会的課題を解決し、自社の社会的価値ひいては経済的価値を向上させるべく、「便利・快適」「感動・共有」「安心・安全」をそれぞれのキーワードとした3つの事業展開を開始しました。

一つ目は、世界の人々の「便利・快適」を支えるインダストリアル分野です。半導体や電子部品製造用の装置や、次世代半導体検査用装置などによる光加工技術を通じ、便利で快適な社会基盤づくりを支えるものです。

二つ目は、世界の人々の「感動・共有」を提供するビジュアルイメージング分野です。シネマ用デジタルプロジェクターやその光源、バーチャルリアリティシステムや景観照明といった映像・照明技術を通して新たな感動・共有を提供してまいります。

そして三つ目は、世界の人々の「安心・安全」を実現するライフサイエンス分野です。このライフサイエンス分野とSDGsは非常に密接な関連があり、多くの企業が挑戦していることは皆様ご承知の通りであり、当社においても、自社の光技術を応用し、地球と人々の健康を支えることを目的にこの第三の分野に注力してまいります。

貴社とのお付き合いの開始は、ランプ封止技術を太陽電池へ転用する事がきっかけでした。貴社の“光触媒を活用した製品の大量製造技術”と、当社の“光・封止・電源・システム”が融合することで、科学技術推進機構（JST）が進める戦略的イノベーション創出プログラムにおいて最高評価となるS評価を受けられたことは、これこそ業界を超えた連携の成果であると認識しております。

このような取り組みの継続こそが、国連の掲げる「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」の達成に向けた第一歩であると考えております。また、日本経済団体連合会が「Society 5.0 for SDGs」を推進している様に、世界規模の社会的課題を克服するためには、DX（Digital Transformation）を積極的に取り入れ、労働生産性向上、健康寿命の延伸、公衆衛生の改善、医療費の削減、食糧の生産性向上、エネルギーの効率生産や効率利用、畜エネルギー、環境汚染の抑制、ワークスタイル変革など様々な取り組みを進める必要があります。いずれにおいても、“光”とデジタル（システム）により、克服し得る社会課題であると信じております。

貴社は1952年の創業以来、鉄鋼の製造工程において中核的な役割を担ってこられた歴史があり、近年では、新たに環境事業・介護事業、そしてエネルギー問題にまで率先して取り組まれています。未来を予測し、鉄鋼事業に固執することなく、新たな事業に常に挑戦を続けている姿勢は、模範とすべき企業活動であります。

特に、貴社の光触媒の独自技術は、低コストで、世界トップクラスの性能を確立されております。その独自技術を製品とサービスに展開し、医療現場を始め社会に貢献することを第一の目的に開発がなされております。

また、それら開発を可能とするためには、優れた人材の育成が欠かせません。貴社の“フジコー

60年史”には、貴社の技術に対する情熱や根底に流れる想い、特に技術継承・人材育成への考え方が述べられており、非常に感銘いたしました。優秀な技術者の輩出こそが持続的開発目標の達成において非常に重要であると、改めて認識しております。

SDGsが一般化される以前から、社会貢献を第一とした技術開発を行ってこられたことに敬服を表します。このような取り組みは、国内外を問わず、環境・医療・福祉の問題に直面する世界の方々から、多くの理解・支援を得られる取り組みであります。

2020年は、誰もが予測できなかったパンデミックの影響を受け、世界的に厳しい状況を余儀なくされております。加えて、日本における少子高齢化の進行、世界規模では、自然災害・地球温暖化などの環境問題、エネルギー問題、人口増加、食料問題、資源の枯渇など、多くの問題が顕在化しております。

不確実性の高まる現代において、これら多くの問題の解決は、ますます、単独企業の力では限界となってきます。企業においても多様性（同業のみでなく異業種企業）を重視し、複数の企業が知恵を結集し、協力し合い、これらの諸問題を持続的に解決する必要があると考えています。

例えば、貴社は光触媒技術の強み活かした消臭、除菌などへの取り組みを、当社は光による殺菌、ウイルス不活化への取り組みを進めております。互いに技術や手段は違うものの、目指す社会の将来像は同じです。様々な社会課題を想定し、両社の取り組みを単なる足し算で終わらせるのではなく、掛け算とすることでさらなる価値を創出し、社会課題の解決に向けチャレンジしていくことが企業価値の向上、ひいてはより良い社会の実現へと繋がります。

末筆ながら、今後とも技術開発に重きをおくという理念の元、不確実な時代の要求に応え得る技術開発・事業展開を通して“継続的開発目標”の達成を実現されることを祈念し、私の巻頭言とさせていただきます。

【履歴書】

ないとう こうじ

内藤 宏治

生年月日 昭和38年4月3日

【略 歴】

昭和61年	4月	ウシオ電機株式会社 入社
平成22年	4月	第二事業部プロジェクトBU 販売促進部長 就任
平成25年	4月	第二事業部営業部門長 就任
平成26年	4月	第三事業部長 就任
平成26年	10月	執行役員 就任
		光源事業部副事業部長兼光源事業部営業部門長 就任
平成27年	4月	上級執行役員兼光源事業部長 就任
平成28年	4月	常務執行役員 就任
令和 元年	6月	代表取締役社長 就任
		現在に至る